

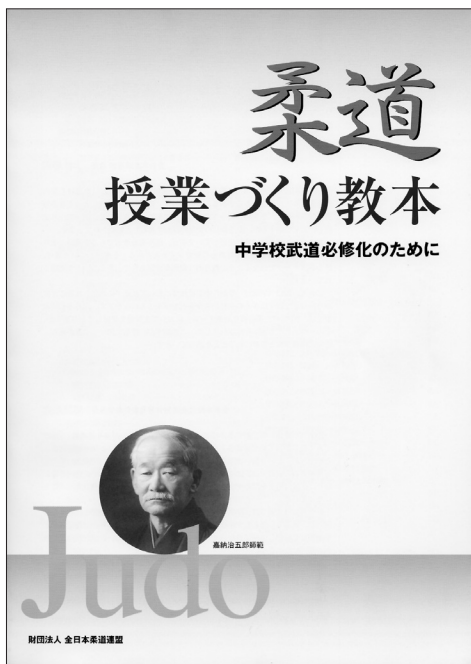
シリーズ ■ 中学校武道

授業の充実に向けて ③⑦

指導教本のねらいと活用のポイント 柔道 ②

全日本柔道連盟教育普及委員会 副委員長

鮫島 元成



全日本柔道連盟発行 『柔道』授業づくり教本
(A4判、63頁、DVD付)

柔道の創始者である嘉納治五郎は、その修行の意味を、単に柔道の技術を修得するだけでなく「心身の力を最も有効に使用する道」を修得することにあると述べている。この意味は、柔道の目的を達成するために、精神と身体力を合理的に使用することが必要であり、単に柔道の技能を学ぶだけでなく、社会生活すべてのことを行う原理として応用できるものと考えられる。そして柔道を行うことによって、お互いに協力し、助け合い、譲り合い、それによって自己共に向上することが社会の発展に役立つかと考えられている。

学校教育においても、柔道が有する教育的な意義を授業の中に教材として採用すればよい。この教本は、これらの教育的な意義を踏まえ、全国の中学生が、柔道の魅力を十分味わうことができるように、初心者の指導者・生徒のために作成された。

本稿では、具体的に教本の内容をいくつか抜粋し、そのねらいと活用のポイントを説明したい。

1 (教本 p45) 授業の進め方

(1) 安全指導

前回述べたとおり、授業において最優先で留意しなければならないことは、安全指導である。柔道の授業は安全で楽しくなければならぬ。「スポーツにけがはつきもの」ではなく「けがは指導者、生徒の努力で回避できる」と考えなければならない。「けがをしないために柔道の授業を行う」と考えたほうがよいかもしれない。教本では「この動作がけがにつながる」として、「動作」「けが」「原因と指導法」に分けて解説している。

きれず同体で転倒する。

【けが】

- ・頭を打撲する
- ・胸を圧迫する
- ・肘、肩の負傷

【原因と指導法】

- ・取の技の未熟⇓ある程度技の形ができるまで投げさせない。
- ・片足立ちで投げる技は、かけた後、作用足(右大外刈りであれば右足)を戻して両脚で立つ。
- ・無理なかけ方⇓力や、スピードを加減し、技の形を作る。
- ・取の巻き込み⇓初歩の段階では一切巻き込みを禁止する。
- ・受け取にしがみつくと⇓自分のバランスが崩れたら潔く畳を「パチン」とたたいて受け身をする。

ケースⅡ

【動作】

受け身がとれずに掌、肘をつく。

【けが】

- ・手首、肘の負傷

ケースⅠ

【動作】

技をかけた後、取が受を支え

□この動作がけがにつながる

— けがをしないために、

させないために —

目次

- ◇この教本の作成のねらい、および教本の使用についての考え方
- ◇授業の進め方
授業づくりのポイント、単元計画、評価および評定の考え方とその方法
- ◇授業の実際
基礎知識、柔道衣、柔道衣の着用、礼法、坐る・立つ
- ◇中学校武道必修化にともなう「効果的で安全な授業案」導入の考え方とその方法
投げ技導入の具体例、抑え技導入の具体例
- ◇基本動作
投げ技の基本動作、受け身、固め技の基本動作
- ◇技の段階別練習方法
かかり練習、約束練習、自由練習
- ◇投げ技
出足払い、膝車、体落とし、大外刈り、大内刈り、大腰
- ◇固め技(抑え技)
横四方固め系、けさ固め系、上四方固め系、縦四方固め系、肩固め、抑え技のトレーニングおよび抑え技の連絡・変化(世界一周)
- ◇技の連絡・変化
- ◇試合のしかた
- ◇(補章)
柔道学習のねらい、「中学校学習指導要領解説」(文部科学省)から抜粋、禁止事項、ためになる柔道の指導書、参考文献・引用文献

【原因と指導法】

- ・取が釣り手のほうに投げる⇓初歩の段階では全員右組みにし、引き手(左手)の方向に投げることを徹底する。
- ・取が引き手を離す⇓受も右手を離さないようにする。取は投げた後、両手で腕を引き上げる。
- ・大外刈りで受け身のタイミングが早すぎる⇓尻を着いてから畳をたたく。

ケースⅢ

【動作】

技をかけるときに取が頭を突

【けが】

- ・頸椎の損傷
- ・頭の打撲

【原因と指導法】

- ・膝が曲がらず腰が曲がっている

(資料2) 単元計画と学習の流れ ■対象…初めて柔道の授業を受ける生徒で、基本動作や基本となる技を用いて柔道を体験する生徒 (教本p6、7より)

区分	はじめ	なか①					なか②					まとめ	
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
0分	本時のねらいの確認 準備運動 体ほぐしの運動(抑え技の基本動作:回転運動、2人組での柔軟体操) 補助・補強運動												
50分	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>はじめ 柔道の特性、歴史、試合の意義、意味などをわかりやすく説明し、柔道を授業で行う意義を理解させ、学習への導入とする</p> <p>はじめの段階 柔道の基礎・基本を一斉授業で繰り返し行う</p> <p>進んだ段階 生徒が技の練習法などの学び方を身に付け、計画的に学習したり、自由に練習できる時間をつくり、主体性を育てる</p> <p>まとめ ●発表会 評価項目の設定</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>基本動作</p> <ul style="list-style-type: none"> ●投げ技の基本動作 ●オリエンテーション ●基礎知識 ●体ほぐしの運動 ●投げ技、固め技の導入 <p>対人的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本となる投げ技+受け身 ●抑え技→自由な発想で考えさせる </div> <div style="width: 30%;"> <p>技の練習法</p> <p>簡易な試合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●簡易な試合のしかた 抑え技の試合 投げ技の試合 <p>●発表会 相互評価 自己評価 教師による評価</p> <p>まとめ・感想文の記入</p> <p>次の段階への課題を明確化する</p> </div> </div>												
	整理運動	相互評価	自己評価	教師による評価	黙想	次時の確認							

- ① けがをさせない、けがをしない
- ② 深く受け身をする
- ③ 投げたら引き手の高さを保ち、受け身をしやすいようにする
- ④ 無理な体勢から技をかけない
- ⑤ 強引な技をかけない
- ⑥ 自分たちの能力に応じた練習のしかたをする
- ⑦ いつも練習相手のことを考える

□指導者が妥協してはいけないこと
次の二つは教本に記載されていないが、指導者が妥協しては

□「練習の心構え」
これらの事故を起こさないよう、教本では7つの「練習の心構え」を紹介した。

↓重大な事故につながるので基本を最初からやり直す。膝を曲げ、正面を見るようにする。視線が下になる(下を向く) ↓正面や壁を見るようにする。

□技における安全面の留意点
教本では、投げ技・固め技の説明項目に「安全面の留意点」を加えた。ここでは「大外刈り」を例にとりあげてみたい(資料1)。

(2) 単元計画
単元計画、指導案は教師が授業を作りやすいようにその内容、手順などを文字や表で示したものである。従って、このように書かなければならないとか、これが絶対によいというものではない。

これまでの単元計画は、1時間ごととその学習内容、学習活動、指導上の留意点、評価などを区切って示していた。しかし、

いけないこととして、特に留意してほしい点であるので付け加えたい。
① どんなにやりたくても、やってはいけないことはやらせない、やらせない。
② どんなに嫌でもやらなければいけないことはやる、やらせる。

(資料1) 「大外刈り」の安全面の留意点 (教本p41より)

初歩の段階では、刈り足を大きく後ろへ振り上げたり、上体を前方に倒しながら刈り上げるかけ方をすると、受が後頭部を打撲する。
◎指導⇒受がバランスを崩したら刈り足を戻し、畳について安定を保つ。

投げた後、受の上ののっていき同体で倒れると、受が受け身をとれずに頭を打つ。
◎指導⇒軸足(左足)の膝を曲げ、しっかりと自分の体重をかける。バランスを保てるように単独で刈る練習をする。

両脚を刈ると受が背中や頭を打つ。
◎指導⇒受の足幅を広くする。刈るときに膝、大腿部を軸足からあまり離さない。

刈るときにかかとが受のふくらはぎにあたると、受が足を打撲する。
◎指導⇒取の膝裏が、受の膝裏に当たるように刈る。単独で足首を伸ばす練習をする。

受が投げられまいとして手をつくると、手首、肘を痛める。
◎指導⇒バランスを崩したら自ら倒れ、「パチン」と音がするような受け身をする。

教本で示した単元計画は次頁資料2のとおり、単元時数を横軸に、授業時間を縦軸にし、学習内容を1時間ごとに設定するのではなく、指導内容と指導時間を緩やかにしたスパイラル(螺旋)様に設定した。授業の進度によって内容を増減できるように作成したものである。

(3) 評価
柔道の授業における評価で大切なことは、評価をその後の指導の中でどのように活かしていくかにある。評価を単に学習活動のまとめとしてではなく、生徒と教師の学習活動の点検作業としてとらえ、その後の指導の改善、充実に役立てるとい

2 (教本p14) 授業の実際

点を持ちたい。
教本では、「評価の考え方」「評定」と「観点別学習状況の評価」として項目を立て、説明している。

例えば、技術面では技の理合、受け身のしかたや必要性、相手をかばう方法について、精神面では、相手がいるから技術が発揮できた、相手をかばいながら制するという気持ちを学ぶことができる。

教本では、ほかに「嘉納治五郎」「学習内容の例」「柔道衣」「礼法」「坐る・立つ」といった項目をたて、基礎知識について説明している。

(1) 基礎知識
□柔道の目的・学校柔道の目的
冒頭でも述べたとおり、柔道は、精神と身体力を合理的に使用することが必要であり、単に柔道の技能を学ぶだけではなく、社会生活すべてのことを行う原理として応用できるものと考えられる。そして柔道を行うことによって、お互いに協力し、助け合い、譲り合い、それによって自他共に向上することが社会の発展に役立つと考えられている。

投げ技がうまくかかったときには、相手は畳の上にあおむけ

(2) 導入の考え方とその方法
初めて柔道の授業を受ける生徒に、その1時間目「武道の特性」「礼の意味」「精力善用・自他共栄」などの武道の原理をすべて指導する必要はない。この段階で生徒がそれを理解することは難しい。その理解は単元

華族令嬢たちの大正・昭和 華族史料研究会編
 女子学習院での教育、お国入り、関東大震災、二・二六事件、戦争…。四人の女性が在りし日の華族の生活を語る。追憶の中から激動の時代が浮かび上がる。2940円
 みやこ

京を支配する山法師たち
 下坂 守著 中世延暦寺の富と力 室町幕府に政治改革を迫り、戦乱を生き抜いた寺僧たちの姿から、世俗権力延暦寺の実態を解明。2835円

現代語訳 吾妻鏡
 ⑩御成敗式目 (第10回配本)
 五味文彦・本郷和人・西田友広編 北条泰時の主導のもとに花開く執権政治。そして孫の経時が次代をなう若者たちが元服を迎える。2520円

歴史文化ライブラリー
 319 **古墳** 土生田純之著 1785円
 構造や葬送儀礼から古墳をつくった集団を探り、在地社会の政治構造を検討。渡来人との関わりや国家形成など、巨大古墳築造の背景に迫る。

320 **江戸の寺社めぐり** 鎌倉・江ノ島・お伊勢さん
 原 淳一郎著 ご利益・名所見物・グルメ・お土産…。楽しみいっぱい、されど命がけ。行動文化の視点から、江戸時代の旅の実態に迫る。1785円

民俗学とは何か 柳田・折口・渋沢に学び直す
 新谷尚紀著 フォークロアでも文化人類学でもない。「もう一つの歴史学」を捉え直し、民俗学の豊かな可能性を描く民俗学入門。1995円

吉川弘文館 価格税込
 東京都文京区本郷7-2-8・Tel.03-3813-9151
 PR誌「本郷」見本誌送呈

の後の技術の学習効果を高めるだけでなく、障害の防止にもつ

3 基本動作 (教本 P22)

【抑え込みの条件】

- ① 相手をだいたい仰向けにする
- ② 自分は相手の上で概ね向かい合った形になっている
- ③ 相手から束縛を受けていない (胴、脚を相手の足で絡まれない)

特に重要だと思われる「受け身」について一部紹介したい。

習が積極的にになり、技術も向上する。受け身の練習は初心者

示した「横転受け身」もそれに

ながら。基本動作の練習は面白みに欠ける面もあるが、技との関連で練習するなどの工夫で、生徒は、興味関心を持つようになる。

教本では、投げ技と固め技の基本動作を、写真を多く使いつながら説明している。投げ技では、「姿勢」「組み方」「進退動作」「崩し」「体さばき」「受け身」「固め技では「基本姿勢」「腋をしめる(伏臥前進)」「体を横に返す(えび)」「脚回し」の項目に分けて解説している。本稿では、

「受け身」の練習の主な目的は相手を勢いを持って倒すことであり、この目的のために投げ技の技術を磨くことになる。しかし、練習の過程で投げられることに苦痛を感じたり、けがをしたりすると、お互いにその目的を達成できなくなる。ゆえに、柔道の練習は「倒れ方、転び方」から始める必要がある。この方法が受け身である。

みならず熟練者にも必要である。「受け身をお互いに取る」という謙虚な姿勢の習得にもつながる。投げられるときの方向を大別すると、「後ろ、横、前」の3方向になり、それぞれの場面に応じて行われる受け身が「後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身」である。

しかし、この技にはこの受け身というのではなく、倒されたときに自由に体を反応させ、安全に身体を処するのが受け身と考えてよい。例えば、教本でも示した「横転受け身」もそれに

が終わるときでよいし、終わった後、極端にいえば卒業後でもよい。教育には時間がかかるし、かけた時間だけ生徒が理解するとは限らない。

従って、導入時には「最初は『アバウト』に、最後は『しっかりと』の気持ち」で指導したい。「アバウト」に指導する、という抵抗があるかもしれない。逆に「しっかりと」と指導するといったほうが教育的かもしれないが、はじめからその「しっかりと」にこだわりすぎると教師にとっては授業展開を難しくし、生徒にとつては窮屈な授業になりかねない。「アバウト」に指導しながら最後は「しっかりと」と授業をおさめる。そのような考え方で導入を実践すればよい。

(3) 投げ技・抑え技導入の具体例
 導入段階では、生徒が「この時間は面白かった」「次の授業が楽しみだ」と思うような指導方法を考えていきたい。教本では、投げ技・抑え技導入の具体例を



精一杯引つ張り合うことを経験させ、「力だけで相手を倒すのは困難である」と理解させる。そして、「倒すためには技の練習が必要である」ということを認識させる (写真は「第1回全国中学校柔道指導者研修会」より)

杯引つ張り合う、②自由に動きながら、押したり、引いたり、回したりして相手を倒そうとする。この二つを経験させる。

いずれの動きでも相手はほとんど倒れない。「この段階で、力で相手を倒すことは困難」であり、「倒すためには技の練習が必要である」ということを認識させる。投げ技の導入において大切な点である。

【抑え技導入のポイント】
 抑え技の導入のねらいは、①1時間で一流選手と同じ技を習得できるという達成感を味わう、②技の習得よりも、自分たちで合理的な力の使い方を工夫するというような思考力の向上につながる、③自由練習を行うことで、身体をぶつけ合う経験を生徒ができる、という点である。

また、導入時においては、抑え込みの条件(どうしたら「抑え込み」になるのか)と、安全面での留意点を繰り返し確認することが必要である。参考として、抑え込みの条件を示す。

示した。ここでは、投げ技・抑え技それぞれの導入のポイントについて述べてみたい。

【投げ技導入のポイント】
 柔道は、格闘の要素を含んだ自由練習まで経験させて、教育

的価値が出てくる。授業では、相手を倒すためにはどうするか、力だけで倒せるかということを経験させたい。

具体的には、①お互いに組んで、腰を引き、頭を下げ

で、腰を引き、頭を下げ

【横転受け身】(資料3)
 これまでになかった受け身の名称であるが、いわゆる転がり方の練習である。前転ではなく



横に転がって、手と足で畳をたたく方法である。膝車や体落としの初歩の段階では、この受け身で十分である。

4 (教本 p32) 技の段階別練習方法

柔道の練習は、「自由練習(乱取り)」が中心となる。自由練習をお互いに楽しく行い、得意技を作り、また充実感が得られる練習をするためには、基本に忠実な技を身につける必要がある。そのため練習過程が、「かかり練習(打ち込み)」であり、「約束練習」である。
 教本では、以下の順で技の段階別練習方法を紹介し、その内容を説明している。
 ①基本技の学習
 ②かかり練習(打ち込み)
 ③約束練習
 ④自由練習(乱取り)
 ⑤試合練習

5 (教本 p34) 投げ技・固め技

(1) 投げ技
 基本の技と考える「出足払い」「膝車」「体落とし」「大外刈り」「大内刈り」「大腰」をそれぞれ見開き2ページにコンパクトにまとめて説明している。
 各々の技は、次の①〜⑦の項目に分けて説明をした。
 ①技の概要
 (例) 膝車
 受を右前すみに崩し、受の右膝に左足裏を押し当て、それを支点としてねじるように投げる。
 (例) 体落とし
 基本動作が多く含まれ、安定して技をかけることができる。前に倒れるために、受け身をしやすい。
 ③基本のかけ方
 「タイミング」「手の用法」「足の用法」に分けて示している。
 (例) 体落とし
 ・イチ(右足)、ニー(左足と崩し)、サン(右足で支えて投げる)、ヨン(受け身)
 ・右手はほぼ垂直に釣り、左手は「へ」の字のように引く(小指を上に向けて引いた後に、引きおろす)
 ・右、左、右の順に入り、足幅は畳半畳、つま先を前に向け、重心は左足に6、右足に4の割合でかける。
 ④受の協力



投げ技の解説は、見開き2ページで、コンパクトにまとめている

(例) 体落とし
 ・自然体でつま先立ちになる。
 ・取の右肘を自分の左腋に引くようにする。
 ・右足に徐々に重心を移し、取の膝裏が膝頭に当たるようにする。
 ・右膝を取の右膝裏に押しつける。
 ⑤練習の方法
 「単独で行う場合」と「相手と組んで行う場合」に分けて示している。
 ⑥技をかける機会
 (例) 体落とし
 ・受が後ろに下がるとき受が下がる動きに合わせて、右足前回りさばきでかける。
 ・受が前に出てくるとき受が押し出てくる動きに合わせて左足後ろ回りさばきでかける。
 ⑦陥りやすい欠点とアドバイス
 (例) 体落とし
 ・体さばきができていない
 ・素早い前回りさばきの練習を繰り返す。
 ・受が崩れていない
 ・右手の釣り左手の引きをきかせて崩す。

・上体が左に傾きすぎ
 ・重心を身体の中央近くまで移動する。
 ・釣りを押ししてしまう
 ・横に押すのではなく、引き上げるようにする。
 ・右肘が上がってしまう
 ・腋をしめ、自分の手首を自分の右耳につけるようにして釣る。
 ・右肘が背負い投げのようになる
 ・前項と同じ。
 ⑧安全面の留意点
 (例) 大外刈り
 資料1参照

(2) 固め技(抑え技)
 抑え込みの形を、「四方固め系」と「けさ固め系」のように分類し、抑え方とその応じ方(返し方)を1ページにまとめて説明した。
 抑え技は、初心者でも技術が確実に身につく、自由練習(乱取り)を行うことができる。いわば、抑え技は体をぶつけあいながら相手を制する、あるいは遊ぶという人間の本能的な動きであるために、生徒は喜んで活

動する。柔道の授業において、初心者の興味づけにはたいへん効果的である。
 また、抑え技のトレーニング、および抑え技の連絡・変化として「世界一周(けさ固め)↓崩れけさ固め↓横四方固め↓縦四方固め↓肩固め↓けさ固めを連続して行う」という練習方法も紹介している。
 各々の技は、次の①〜⑤の項目に分けて説明をした。
 ①技の概要
 (例) 横四方固め系
 受の側方から首と上体を制し抑える技である。ほかの固め技に連絡することが容易で、実践的な抑え方である。
 ②基本形
 基本形及びそれに類する形を示した。
 ③応じ方
 (例) 横四方固め系
 左側から抑え込もうとする取の右肩を右手で押し、取の体との間に隙間を作る。左手を抜き、体をひねってうつ伏せになる。

近現代柔道 Judo 5月号 特別定価 920円(税込)

【短期集中講座】実戦寝技をマスターする! vol.3 第1回全日本カデ選手権 第1回アジア形選手権 大学柔道の系譜—国士館大③

全日本選手権プレビュー 組み合わせ/展望/出場選手名鑑/地区予選記録 動画配信中

【入門! 一流の技術】塚田真希4段の「大外刈り」

【特別対談】岡野 功&正木照夫 谷本歩実&坂根正弘

上川大樹、新旧対決に一本勝ち! 78kg超級は杉本美香が3連覇

全国の柔道ファン必見の本格派専門誌!

オンラインショッピング > http://bookcart.sportsclick.jp/ <電話&FAX> 025-780-1231 FAX 025-780-1232 [共に別途送料がかかります]

- ④ 攻撃のしかた
 (例) 横四方固め系
 資料4参照
- ⑤ 陥りやすい欠点とアドバイス
 (例) 横四方固め系

・受の右腰に右ひざを当てていない
 ↓受が体をひねって脚をからめてくるので右膝を密着させ、すき間を作らない。
 ・上体が下がりがりすぎ
 ↓左腕を引き締めながら胸で受の右胸を圧迫するように抑える。

(資料4)「横四方固め系」攻撃のしかた (教本p47より)



・上体がのりすぎ
 ↓胸を張り、脚を開いて腰を落とし、自分のが受の胸部の上に位置するように抑える。

6 技の連絡・変化

(教本 p52)

相手を投げるためには、技を連続してかけて相手を崩したり、

相手のかけた技の力を応用して相手を崩し、投げにつなげる必要がある。そのために行うのが「技の連絡・変化」である。初心者には難しい点もあるので、「相手の力や動きを利用すること」を伝えるなどして、生徒が興味を失わないよう指導したい。

技の連絡・変化に関しては次の方法を示している

- (1) 技の連絡
 - ▽体落とし↓体落とし：同じ技を連続してかける
 - ▽大内刈り↓体落とし：違う方向に2つの技をかける
 - ▽体落とし↓大内刈り：逆の方向に2つの技をかける
 - ▽小内刈り↓大内刈り：同じ方向に2つの技をかける

(2) 技の変化

- ▽体落とし↓体落とし：相手が技をかけた直後にかける
- ▽出足払い↓出足払い：相手の技の力を利用してかける
- ▽大外刈り↓大外返し：相手の技を切り返してかける

▽大内刈り↓体落とし：相手の技の力を利用してかける

7 試合のしかた

(教本 p58)

学校の授業における試合を「各学習段階のまとめ」と考える。その意味から「柔道衣の着方の試合」「受け身の試合」「礼法の試合」も成立する。

- (1) 「試合」の考え方とその方法
 授業における試合の目的は、オリンピックや世界選手権大会の目的とは違う。従って、前述のように「柔道衣の着方の試合」なども成立する。また、自由練習の延長として、1分〜2分程度の簡単な試合と、その試合の審判をすれば、生徒は柔道の授業に対し、充実感を得られるはずである。

ここで、「柔道衣の着方」の試合を紹介する。

(例)「柔道衣の着方」の試合

▽ねらい

柔道衣をかつこよく着る、帯が解けないように結ぶ。それが合理的な練習につながるということを指導する。

▽ポイント

- ・単元終了時に「ねらい」が達成できるように単元の中で数回行う。
- ・勝った、負けたが目的ではなく、いかにしっかりとした着方ができるかを指導する。
- ・人の格好を見て自分の格好を確認する、「人の振り見てわが振り直す」習慣をつける。

▽具体例

・授業前半：柔道衣の着方を指導した後、練習時間を設定し(2分程度)、2人組みにして、その着方を教師が判定する。その後、お互いに指導し合う。

・授業中程：授業の途中で予告なく授業を止め、そのままの格好でクラスを2つに分け、教師が判定する。服装が乱れた場合はすぐ正しい格好に直すことを指導する。

・授業後半：「評価の観点」として、「柔道衣を正しく着る」を提示し、2人組みもしくは5人程度のグループを形成し、その評価を残りの生徒、および教師が判定、評価する。

8 補助教材

(教本 p63)

指導の補助教材として、次の2冊を紹介したい。

(1) 『柔道の安全指導』

(財団法人全日本柔道連盟)
 全日本柔道連盟が柔道の事故防止のために全力をあげて、祈るような気持ちで作成した冊子である。現在、さらに理解しや

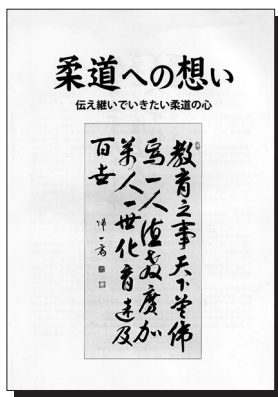


すくするために改編中である。

日本各地の安全指導講習会で使用されている。授業において必要な内容が随所であり、ぜひ活用してほしい。全日本柔道連盟のホームページ(柔道資料室)欄)からも無料でダウンロードできる。

(2) 『柔道への想い』

(財団法人全日本柔道連盟)
 嘉納治五郎の正しい柔道の思想を継承するために、柔道を愛する153名の柔道指導者の熱い想いをまとめた講話集である。授業の前後に講和として3〜5分程度で語りかけられる内容であり、生徒はもちろん指導者にも有益な内容が豊富に掲載されている。



9 おわりに

9

この『授業づくり教本』は平成24年度から始まる中学校武道必修化のための指導法のひとつの例示である。また、教本の2頁目に明示したように、「初心者」の指導者、初心者の生徒のための指導書」であり、初年次(1年時)の授業13時間を想定した授業づくりのための指導書であるということ前提に制作した。

しかし、この教本には柔道を専門としている教師にも必ず役に立つ内容があると確信する。指導者の方々には、これを基に、指導法を自ら工夫・研究し、各地で行われている実技研修会などにも積極的に参加していただきたい。そして、指導内容をさらに発展させ、生徒が喜ぶ授業を数多く展開してほしいと考える。